

Title	国民主義経済学
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.1 (1936. 1) ,p.1- 22
JaLC DOI	10.14991/001.19360101-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360101-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360101-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶大教授  
經濟學博士

向井鹿松 著

菊判七四〇頁

價五圓

送料廿二錢

# 資本主義 II 配給市場組織

財貨移動の  
社會的組織

本書は經濟機構の一斷面たる財貨の社會的移動を研究對象にせるもの。まづ商業が現代社會の經濟組織内に占むる位置及重要性を指摘し、次いで財貨の配給に必要な社會的職能を論盡し、之等の職能を與ふるに要する行爲、費用等は社會的に之を避くることが出來ぬ所以を明らかにし、複雑なる配給組織の種類及構成を詳述するのみならず、その由つて來る所と其存在理由の追求に力を盡し、且つ將來享くべき變革をも周到に考察してゐる。

此改訂版は基礎的理論及方法に於ては不變と雖も、殆んど最新の資料を採用し、特に中央市場と小賣組織の如きは全的に改稿されて居り、二三の新項目も追加せられて、遺憾なく新内容を誇示してゐる。

## 全訂改版

經濟學博士 向井鹿松 著 總論 三圖五十錢 送・一四  
各論 四圖 送・二二

同 著

價二圓八十錢 送・一四

證券市場組織 (企業金融的組織)

增改 補訂 取引所の理論的研究

通橋本日京東【所行發】

丸善株式會社  
大 神戶 京都 大阪 名古屋 東京 五番街  
丸善株式會社

(番五第京東替振)

ルビ丸・田稻早・田三・田神一京東

# 三田學會雜誌 第三十卷 第一號

## 國民主義經濟學

高橋誠一郎

其重商主義は集權的民族國家發達の時代に於ける歐洲諸國の經濟思想並びに經濟政策を支配せるものである。中世に於いては、全國民の力を一點に集中することの出來た統一的国家組織は殆んど存在することがなかつた。中世の人心は久しく、最良且つ最高の政治組織形態を以つて種々なる種族及び民族を共同の繼に結束す可き世界的帝國に在りと傲すの思想を抱懷して居つた。而して事實上神聖羅馬帝國は長く其の存在を失はなかつた。加之、中世の歐羅巴は羅馬加特力教の集中力と統一力とを以つて結合せられて、理論上に於いて、又或る點までは實際上に於いても、

國民主義經濟學

超國民的なる世界的基督教國の實を現して居つた。羅馬教會は羅馬帝國滅亡以後、野蠻未開の侵略者に對する完全なる知識的優越を意識し、帝國の瓦解によつて生じた諸王國中に鞏固なる地盤を取得するに至つた。法王は遂に聖俗兩界に互れる一切の事項を統轄した。然しながら、歐洲諸國民が次第に緊密なる結合を來して民族的國家を形成し、而して其の經濟的發達の歩を進むるに連れて、基督教國の統一は解離した。而して弛緩なる共同體は漸次其の結合を緊密ならしめて鞏固なる王國と爲り、總がて世界的宗教政治の支配より自己を解放せんとするに至るのである。老法王ボニファキウス(Bonifacius)八世は嘗だに靈界の權力のみならず、俗界の其れをも掌握して歐洲諸國大聯合の首長たらんとした。然も一千三百〇三年九月を以つて演ぜられたアナニの悲劇は法王の鬼面を引き剥ぎ、彼れが俗界の事項に關して何等の實力をも有せざるの事實を暴露せしめた。法王國家は滅亡した。教會の支配權より自己を解放し、或る程度まで種々なる宗教團體を國家的ならしめたる自主的國家の近代的政治組織は發生した。是れと同時に既に教會との鬭争に由つて壊滅した神聖羅馬帝國は半ば宗教的、半ば政治的經濟的なる新たなる動亂に由つて分裂を來した。帝國の廢墟と教會の斷片とから國民を以つて單位と做せる近代的國家は生誕せんとする。實際生活上の必要は、あらゆる方面に於いて、絶えず社會を驅つて、保守的なる舊經濟組織の反抗を排し、國家的組織に向つて推進せしめた。即ち中世的團體並びに中世的制度は皆、日を逐ふて經濟上の大障害と爲つた。人民は是れ等の煩を避けて、更らに廣大なる單位を形成し、更らに遠大なる利益の同盟を結ぶに至つた。今や強大なる國家は、都市と其の内部に於ける組合的團體並びに地方に於ける領主に代つて、商工業の針路を指導せんとしつ

ゝあるのである。斯くの如き時代に對應する歐洲諸國の經濟思想並びに經濟政策が所謂重商主義である。是に於いて乎、重商主義を以つて國民主義的經濟體系と解する者の存することも敢て異とす可きでない。フマニスト教授(Hoegh S. Furniss)は曰く「英國では一千六百六十年から一千七百七十五年に至る間に於いて、有力なる國民主義は幾多の點に於いて吾人が近年に於いて次第に馴染ましめらるゝに至りつゝあつた其れと根本的類似を有する教義及び理論の構造と相關聯する對外及び對内政策の錯綜せる體系を産出した」と。(The Position of the Laborer in a System of Nationalism, 1920, p. 3.)。然しながら、吾人は此の時代の「國民主義」は現時の國民主義の其れとは相異なる基礎を有するの事實を銘記しなければならぬ。國民主義は第十八世紀及び第十九世紀に於ける浪漫主義の子であり、各個國民の先天的に決定せられたる特性及び獨特の運命に對する信念の結果である。斯くの如き思想は第十六、七世紀の人々には殆んど全く未知のものであつた。彼れ等は尙ほ集合的單位を以つて人種、言語及び習慣による統一的國民として考ふることなく、唯一の決定者は彼れ等に取つては國家であつた。大多數の場合に於いて、それは幾多の相違せる國民的要素を包括する一國家に關するものであつた。是れ等のものは寧ろ種々なる國語と方言とを有し、相異なる傳統と制度とを有する諸人民の集團たる性質を有するものであつた。是れ等のものゝ大多數に在つては、特殊の人民、特殊の國民が中心を組織し、而して支配階級と官用語とを供給した。而して是れ等のものゝ總べてに在つて多數を占むる國民と等しく少數の其れも亦共同の君主、即ち主權者に對して強度の忠節を表明するを常とした。人は是れ等の國民的並びに言語的不同が其の國家の利益を妨げざる限り、躊躇なく、

又ここではなく是れ等のものを寛大に取り扱ふことが出来た。浪漫主義侵入以前の時代に行はれて居つた國家及び國民間の關係に關する見解を重商主義は表明するものである。其の關心事は國家であつて、國民ではなかつた。(Eh. F. Heckscher, *Der Merkantilismus. Uebersetzung von Gerhard Mackenroth*, 2. Band, 1932, S. 45.)。國民的國家が眞に其の成立を見るに至つたのは佛蘭西革命以後のことである。地理的位置と歴史的事情とに由つて英國の土地的上層階級及び商業的中層階級は他に先んじて國民的自負を有するに至つたのであるが、第十八世紀以前に於いては未だ此の國に於いてすら眞の國民主義は存することがなかつた。(cf. Art. "Nationalism", in *Encyclopedia of the Social Science*, ed. by Seligman and Johnson, Vol. XI, 1933.)

國民主義は明かに批判的革命的なる第十八世紀の産物である。歐洲の知識階級及び中層階級は彼れ等が傳承される不條理、固陋、狂想的なる制度及び状態の過誤を看出した。彼れ等は他の方面に於けると等しく現存の經濟學說及び經濟政策の非を發見した。重農主義は凡庸なる後繼者によつて其の餘弊を甚しからしめられたコルベール主義に對する反動として起り、久しく製造業、殊に絹布の如き奢侈品の製造を奨勵して、全く農業の荒廢を顧みなかつた政府の政策に對し、農業資本の利益を代表して、眞の國民的經濟政策が佛蘭西國土の大生産力を利用することを主張し、農業階級は生産的であつて、工匠階級は不生産的であると看做し、前者をして封建的搾取と不利なる國家的干渉とから免れしめんことを期した。此の國に於ける工業發展政策に基ける穀物輸出制限の犠牲と爲れ

る農業資本の利益は穀物の自由貿易を要求せしめたのである。蘇蘭のアダム・スミスは重農學派に次いで現れ、自由主義の經濟理論を大成した。茲にストア主義的世界同胞主義は甦つた。人は狹隘なる地方的、集團的忠節を超越して、世界の市民と爲り、人類全體の進歩に盡瘁す可きであると考へられた。而も第十八世紀の思想家は彼れ等が世界主義者である以上に國民主義者であつた。國民を以つて、人間社會の基礎的單位であり、必要なる改革に従事し、人類の進歩を促進するが爲めの最も自然的なる動因なりと做すの信念は次第に鞏固と爲つた。

スミスの流を傳ふる自由主義經濟學者は經濟的自由主義並びに之れと相伴へる平和主義の終極の勝利を信ずるに於いて極めて樂觀的であつた。(『三田學會雜誌』第二十九卷第十號所載拙稿『古版經濟書解題——農業保護問題に關するマルサス及びリカードの諸小冊子』一七五—一六、並びに一八六—一七頁參照)。然も經濟的自由主義はコロンビア大學歴史教授ヘイズ(Carlton J. H. Hayes)の所言の如く、理論に於いては然らずとするも、事實に於いては、決して非國民主義的ではなかつた。重農學派は先づ第一に佛蘭西國民の爲めに其の筆を執つた。アダム・スミスは其の大著を『世界の富』とも『個人の富』とも呼ばずして、『國民の富』と題した。彼れ並びに彼れに次げる英國經濟學者等は彼れ等の國民性を以つて當然のことと看做し、而して彼れ等の原理が國民的法律及び國民的行政によつて實行せられたならば、大不列顛は特に利益す可きことを主張したのである。(The *Historical Evolution of Modern Nationalism*, 1931, pp. 244-245.)。英國の經濟的自由主義は、他に先んじて此の國に始まれる産業革命の進展と共に、同國工業が既に優秀なる機械の供給を多分に受け、其の商人がナポレオン戰役の終末と共に販路の必要を痛

感じ、而して之れに伴つて農業保護の結果たる穀物の高價が労働費用を増加するものと思惟せられつゝありし時代に於いて特に高調せられたものであつた。

然しながら、經濟的自由主義は、經濟状態が著しく英國の其れと相違せる國土に適用せられんとした時、多大なる改修を受けなければならなかつた。佛國民は經濟的自由主義が彼れ等の大學に於いて教授せられ、又彼れ等の政治家の或る者によつて宣明せらるゝことを許しながら、國民的利害と國民的情操とによつて之れを十分に國家的政策に適用せんとすることがなかつた。佛蘭西は對内的には労働組を禁止し、社會法制的制定を無視せんとしつゝあつたのであるが、而も對外的には極端なる自由貿易の政策に着手せんとするの意がなかつた。同國の國民的工業は幼稚であつて、年長なる英國工場の低廉なる産物の競争に對して保護を必要とした。獨逸人は佛蘭西人に比して産業上に於いては更に幾分後れて居つた。彼れ等が其の製造品の大部分を輸入し、農産物を輸出しつゝあつた間は、彼れ等は英國を嘆美し、經濟的自由主義を採用することが出来た。然しながら、一千八百七十年代の終りに於いては、獨逸の産業主義者はビスマルクから國民的保護關稅を獲得するに足るの勢力を有して居つた。(Hayes, op. cit., pp. 247-248)。斯くの如き間に於いて顯然たる國民主義的傾向を有する經濟學説は表明せられたのである。

## 三

國民主義的經濟學者等は、古典的經濟學者等が經濟生活の國民的要素に對して當然附す可き重みを與ふることを閑却せるを遺憾とし、經濟學に在つて考察せらるゝを要する主要なる事實が國民の福祉に存せざる可らざることを

主張し、國民の幸福が個人及び階級の其れと屢々抵觸し撞着するを説き、經濟現象の適當なる説明は是れ等のものが國民的見地より考察せらる可きを要求するを論じ、而して這般の考察は往々にして個人主義的、世界主義的見地に立てる古典的經濟學者によつて到達せられたるものとは甚しく相違せる結果に歸着することを論争した。

然しながら、アダム・スミスの如きも、自利心が屢々各個の營利業者をして社會に取つて有害なる行動を行はしむるの事實を熟知して居つた。彼れは一國に於ける一小部分の人々の小利益を増進するが爲めに、全國に於けるあらゆる他の部分の人々の利益及び諸外國に於けるあらゆる他の人々の其れを毀損する商人を冷嘲する。彼れは自由主義を唱道しながらも、經濟行爲が正義の準則の支配下に置かる可きことを忘れなかつた。洵にスミス自身に取つては、國家不干渉は二の一般原理であつて、絶對準則ではなかつた。彼れは唯だ、各個の營利業者が如何に私慾に耽ることがあるとしても、政府は其の最良なる意向を以つて行動せる場合に於いてすら、殆んど常に彼れ等の企圖よりも公共に對して不良なる結果を齎す可きことを論争したのである。

スミスは單に經濟學に於いてのみ、國家の妨害を受くることなくして、其の別箇の私利を追求するに委せられたる個人が心なくして而も公益に資するの結果、即ち彼れ等の社會に取つて最大可能なる富と商業上の繁榮とを齎す可きことを立證し得るものと思惟した。然るにジェレミイ・ベンサムに至つては、當だに經濟的事項のみならず、政治及び一般生活に於いても、「個人的利益以外に眞の利益なし」と論じたのである。彼れは原則として政府の本分は沈黙主義クワイチンを守つて、自利心をして其の完全なる發動を行はしむるに存すると思惟した。彼れは「最大多數の最大

幸福」を以つて立法者の指導原理であり、主要目的たる可きものであると聲明した。營利心と競争の無制限なる作用は極めて無造作に此の定則の名辭に移されたのである。自由競争は、縦し、如何なる災害を個人の上に蒙らしむることがあつても、それは最大多數の最大幸福に資するものである。彼れ並びに *Principles of Moral and Political Philosophy*, 1785. の著者ウィリアム・ペーリ (William Paley) はデヴィッド・ヒューム及び其の先蹤から功利的快樂主義を受け容れたのであるが、而も彼れ等は之れを社會的功利説に擴張した。ペーリに従へば、道德は神の命ずる所であり、徳は神意に従つて、永遠の幸福の爲めに人類に對して善を爲すに存する。ベンサムは純然たる理性によつて同様の結果に到達した。功利主義は利己的であり、自我的なるの觀がある、而してベンサムは率直に之れを承認する。然しながら、彼れは其の適用に於いては、各人が自己の最善なる利益に資し、斯くて又自己の幸福を確保するに際し、最も善く其の仲間の利益に資し、而して彼れ等の最大なる幸福を促進しつゝあることを主張する。蓋し、苟も其の仲間をして不幸ならしむる行爲は、結局同一の熊様に於いて自己の上を反動せざるを得ざるが故である。而して彼れは國家に對する歸依、特に又、其の改良及び改革に對する執心の如く、國民的ペートリオチズムは最大多數の最大幸福を増進するに於いて資する所極めて大なるを得るものであると主張する。彼れは國民性が國家及び統治に對する本然の基礎であることを信ずる。彼れは佛國民に向つて、其の植民地を解放す可きことを熱心に説いた。蓋し移民は佛國民に非ず、斯くて又、佛國の支配に従屬せしめらる可きものに非ざるが故である。 (Emancipate Your Colonies! addressed to the National Convention of France, Anno 1793, shewing the useless-

ness and Mischievousness of distant dependencies to an European State, The Works of Jeremy Bentham, ed. by John Bowring, vol. iv, 1818, p. 408.)

## 四

這般の理論は恰も産業革命が英國に於いて進行し始めつゝあつた際、舊家内制度の手工業に代ふるに大規模の機械生産を以つてし、農業的舊社會の諸法規によつて新たなる發達の上に課せられて居つた制限に向つて囂々たる非難の聲を放ちつゝある製造業者及び資本家たるブルジョアの數が次第に増加しつゝあつた際に、同國に於いてベンサムによつて表明せられたのである。斯くの如き情勢の下に在つて自己の知識的指導の爲めに、經濟組織の變化によつて喚起せられたる政治的改革を確保するが爲めに、又進歩的なる經營方法に取つて有利なる輿論を教導するが爲めに、單純であり、斷定的であり、且つ不可避の法則の權威を有しつゝある學說の一體を要求しつゝあつた新たなる資本主義の創始者及び支配者たる實際的なる英國の實業家等は、一個の空理的哲學者と提携するに至つたのである。(Hayes, op. cit., pp. 126-127.) ベンサムの自由主義は時代の指導原理と爲つた。經濟學はジューズ・ミル及びリカードを通じてベンサム流の狹隘なる意義に於ける功利主義と同一視せらるゝに至つた。功利主義經濟學は非倫理的不可識論的概念に指導せらるゝものである。アダム・スミスは猶ほ機械工場制度工業の理論家ではなく、カール・マルクスの所謂「マヌファクチュール時代の總括的經濟學者」であつた。(Das Kapital, Kritik der politischen Ökonomie, I, 1867, S. 332 n.) リカードは世界主義と自由主義とをスミスよりも更に發達せし

めた。自由競争の理論は機械工業に於いて最もよく適用せられ得るの観あるものである。産業界の革命全く成り、大規模の工業は絶對的優勝の地位に立つに至り、産業統制を目的とせる舊時代の條例は自由競争に道を讓れる時代に生活し、而して政治の全理論を以つて人間性に關する少數の單純なる公理から演繹せられ得るものと主張する哲學的急進主義の時代に生棲し、而して其の日常生活に於いて取引所に於ける略々完全なる自由競争の支配と資本の流動性とを觀るに慣れて居つたりカードオは這裡の考察を自由競争と資本の至上權とを其の特徴となすに至りつゝある一般産業界に適用せんとしたのである。而も彼れと雖も、機械の使用は地主及び資本家に取つては有利であるが、是れに由つて總収益の減少を伴ふ場合には、労働者の一定數は失職の境涯に陥り、人口は之れに生計を與ふ可き基金と比較して過多と爲る可きが故に、彼れ等の階級に取つては屢々有害と爲る可きものであることを論じなければならなかつた。是に至つて彼れは個人の利益は斷じて公共の其れと相反することなしと做すの意見に對して同意することを得なかつた。(cf. Letters of David Ricardo to John Ramsay McCulloch, 1816-1823, ed. by J. H. Hollander, Publications on the American Economic Association, vol. x, No. 5-6, Sep. and Nov., 1895, p. 136.)

彼れは又、穀法問題に當面して、地主の利益が常に其の社會に於けるあらゆる他の階級の利益と對立することを説かなければならなかつた。(前掲拙稿「農業保護問題に關するマルサス及びリカードオの諸小冊子」参照)。

「自由放任」(laissez-faire)の熟語はアダム・スミス、リカードオ及びマルサスの著作中には發見せらるゝことなく、又斯くの如き觀念すら是れ等大經濟學者の何れに於いても獨斷的形態に於いて提示せらるゝことがなかつた

のであるが、彼れ等の末流は「自由放任」の利劍を眞向に振り翳して、經濟生活上に於けるあらゆる古來の拘束を撤廢せんことを主張した。(ヘンサムは laissez-nous-faire なる辭句を使用してゐるが、(Works, op. cit., p. 440.) デュロルト・スチュアートに従へば、此の辭句を英國に普及せしめたものはベンジャミン・フランクリンであると云ふ。Principles of Trade, sect. 38; Works of Benjamin Franklin, by Sparks, Vol. II, 1836, p. 401; Stewart, Lectures on Political Economy, Pt. I, bk. ii, chap. 3, § 1; The Collected Works of Dugald Stewart, Esq., F. R. S.S., by Hamilton, Vol. IX, 1877, pp. 33, 34.) 反穀法運動、所謂マンチェスター學派、殊にリチャード・コブデン(Richard Cobden)及びジョン・ブライト(John Bright)の實際的政治經濟的活動、新原理の發見よりも先人の所説を祖述するを以つて任務とする第二流經濟學者の言説等は「自由放任」を以つて正統派經濟學の實際的結論として一般人士の心胸に植へ附けて了つた。

五

初め新興經濟學は「見えざる手」の假設によつて倫理的的支持を受けた。利己的貪欲的なる經濟的闘争は自然的調和を確立しつゝある自然法の概念によつて倫理的に贖救せられ神聖ならしめられた。(cf. Smith, Wealth of Nations, 1776, Vol. II, p. 35.) 人爲の施設によつて産業及び商業の界域に於ける自然的傾向の自由作用の上に置かれた妨礙が除去せられたならば、仁慈的調和的なる秩序は自から現る可きである。アダム・スミスに従へば、神の仁慈と教智とは永遠の古よりして常に幸福の最大可能なる高を生ぜしむ可く廣大なる宇宙の機關を設計し指導し

た。(The Theory of Moral Sentiments, Pt. vi, Sect. ii, chap. 3)。あらゆる人は他人に關する事項よりも直接自己に關するものに遙かに深き利害を感じる。自然は世界の公務を念頭に置くを以つて人間の主要なる事業ならしめずして、單に是れを以つて其の時折の慰藉ならしめた。彼れが主たる事務は彼れ自身の日常生活上の事項を支配するに存する。然しながら自然は各人を驅つて自己の地位を改善せしむる人間組織の原理によつて、社會的福利の爲めに備へた。彼れは彼れ自身の利益を追求するに由つて、彼れが實際に社會の其れを増進せんことを意圖する際よりも一層有效に之れを増進することが屢々である。(Wealth of Nation, op. cit., p. 35)。斯くて「在」は「當爲」と一致せしめられ、現實は理想と並立せしめられた。(J. A. Hobson, Economics and Ethics: A Study in Social Values, 1929, p. 116)。「見えざる手」は自利の經濟的原子論を防止した。

倫理哲學の一部として取扱はれた經濟學がリカード及び其の學徒の手中に於いて特殊の研究に硬化せられたる時、調和的仁惠的な自然の秩序は其の半神秘的若しくは神性的性質を脱落して、功利的社會觀の合理主義に合體せられた。獨斷的な「見えざる手」の推定は殆んど全く必要とせらるることのないものであつて、要求せらるる總べてのものは普通の理性を有する者が可及的最少の投費を以つて可及的最大の效果を得んとする經濟的動機に従つて、彼れの土地、勞働若しくは資本を其の最も有利なる用途に投入するの一事である。斯くの如くして總體としての經濟的資源は出來得る限り生産的に利用せらる可く、あらゆる種類の生産的技術の改良は極度に鼓舞せらる可く、而して富の最大部分は其の構成に協力せる總べての者の間に適當なる割合に於いて分配せらる可きである。斯

くの如き學說の發生當時からして分配の公平に關して疑問が存して居つた。這箇自然的調和論者と雖も、現存經濟社會に幾多の害惡の存在することを拒むことが出來なかつた。彼れ等と雖も現在の經濟社會に於いては自然的調和が圓滿に作用することなき事實を甘んじて承認せんとした。然しながら、彼れ等は斯くの如きを以つて自由競争に對する障礙より生じたるものであると思惟した。功利主義經濟學者は分配を以つて自然法則によつて調整せらるゝものと觀た。初期古典的經濟學者の主たる努力は自然的自由の制度を妨碍する人爲的障害物の除去に向けられた。所要の改革は或る程度まで經濟的機會を會得せしめ、又個人的才能を發見し且つ増進せしむることを包含する教育の一般的普及、勞働移動の自由に對する法律上及び其の他の障礙の除去、あらゆる職業に就く自由、土地其の他の自然的資源に自由に接近し且つ之れを利用し得ること、貯蓄銀行、株式會社及び其の他資本の自由なる進出と其の聰明なる動向とを得るの方法による節約の刺激と安全と利用とに對する設備を包含する。(Ibid., p. 118)。工業技術に對する科學の無礙の適用に基く製造及び運輸に於ける奇蹟的進歩は國民的繁榮の時代を誘導するの觀があつた。産業革命は産業に對する冷徹なる理性の適用の結果であり、自由競争及び開明なる利己心の原理は政治學及び經濟學に於ける合理主義の所産であつた。ベンサムに據れば「自然は人間を快樂と苦痛の支配下に置いた。吾人はあらゆる吾人の觀念を彼れ等へ負ひ、吾人はあらゆる吾人の判斷及びあらゆる吾人の生活の決定を彼れ等に委す」(Theory of Legislation; trans. from the French of Dumour, by R. Hildreth, 2nd ed., 1871, p. 2)。「功利の原理」はあらゆるものを是れ等二個の動機に服従せしめる。而して快樂は徳であつて、同時に又幸福なるが故



に倫理的論争を生ずることは全然不可能であつて、眞の困難は各々が最大多数の多大幸福を勝ち得るやうに、其の快樂を取得し得る最低廉なる手段の發見に存するのである。進歩より生ずる或る一定の大餘祿は成功せる商工業者によつて獲得せられ、而して暫く保留せらるゝのであるが、自由競争は彼れ等をして可なりに迅速に、價格の低下に由つて、産業の増加せる生産力の殆んど總べてを一般消費大衆に傳へしめなければ已まぬ。自然的調和に於ける破隙の存することは古典的經濟學者と雖も之れを認めざるを得ないのであるが、而も彼れ等はあらゆる人には彼れの經濟的資源を最良なる社會的用途に委ねるの傾向あることを主張する。而して「最大多数」の定則は彼れ等をして「自由放任」の極端なる形態の上に超出することを得せしめたのであるが、然も彼れ等の理論は彼れ等に世界主義的同情を與へなければ已まなかつた。彼れ等は國民的産業に在つて著大なる効果を勝ち得たる分勞をして等しく又國際的ならしめ、各國をして其の自然的條件によつて恵まることが最も大なる財貨の生産に従事せしむるが爲めに、經濟的關係の最廣可能なる擴張の必要を強調した。斯くの如くして各國は最低可能なる生産費を以つて生産を行ひ、而して同じく恵まれたる状態の下に他の諸國に於いて生産せられたる他の産物に代へて其の産物を交換すべきである。斯くて各國は同時に出來得る限り高價に販賣し、出來得る限り廉價に購入するの地位に在るが故に二重の利益を收む可きである。人類の利害と國民の利害とは同一と觀ぜられ、是れに由つて又、國境は經濟的關係の上は何等の意義をも有せしめらる可きものではないと考へられた。(Josef Grunzel, Economic Protectionism, ed. by Eugen von Philippovich, 1916, p. 8.)

經濟的自由主義は先づ嚴密に經濟的學說として組織立てられ、唯り徐々にのみ國民主義的意義を有するに至つたのである。而も吾人は又之れと同時に顯然たる國民主義的性質を有する經濟學說が表明せられて、其の或る者は特に第十九世紀に於ける國民主義發達の上に重要な影響を及ぼせることを認めなければならぬ。(Hayes, op. cit., p. 262.)

## 六

國民主義的經濟學說の初期の「典型」として掲げらる可きものは、*Johann Gottlieb Fichte* の『封鎖的商業國』(Der geschlossene Handelsstaat. Ein philosophischer Entwurf als Anhang zur Rechtslehre, und Probe einer fünfzig zu liefernden Politik, 1800.) 及び *John Locke* は初め佛蘭西革命の讚美者であり辯護者であつた。(Cf. Beitrag zur Berichtigung der Urtheile des Publikums über die französische Revolution, 1793; Johann Gottlieb Fichtes sämtliche Werke, herausgeg. von J. H. Fichte, VI Band, 1848.) 彼れが經濟學の領域に出遊したのは疑ひもなく革命の時代を通じて現實に佛蘭西に行はれたる經濟的發展に對する其の同情ある觀察の結果であつた。ジャコバン主義の到來以前に於いては、經濟上の事項に關與せる佛蘭西哲學者等は舊重商主義、即ち國家による農工商の規制を非難し、自由放任の政策を以つて最も能く國民的富及び繁榮に資するものとして稱揚するの傾向があつた。而して初期の革命黨員は、自由放任の精神に於いて、又自由の名に於いて、ギルドの獨占及び關稅障壁の廢止の如き重要な經濟上の改革を遂行した。然るにジャコバン黨員は國民的國家を以つて其の市民の經濟的福利

を増進し指導するに依つて彼れ等の最高の忠節を受け、又之れを受くるの資格を有す可きものと思惟した。斯くて彼れ等は舊ブルボン王朝の重商主義的政策の一部を復活せしめたのみならず、幾分中世的經濟政策にすら復歸した。彼れ等は穀物の國家管理及び價格の統制に力を盡した。彼れ等は特にデロンド黨の没落以後に於いて、佛國の農工商に對して立法的恩恵を與ふるに努力した。彼れ等は對外的には國內に金を齎し、對内的には國民を統一す可きが故に、特に商業を獎勵す可きものと信じた。有利なる輸出貿易を確保するが爲めには、佛蘭西は外國の競争に對して高率の關稅を以つて自國の諸産業を保護しなければならぬ。バレール・ツ・ヴィウザック (Bertrand Barère de Vieuzac) は警告して曰く「諸君をして關稅を廢止せしめんことを企圖する虚偽の博愛主義に心を許す勿れ、該主義は總べての英國經濟學者によつて支持せらるゝ所であつて、彼れ等が諸君を説いて之れを承認せしめんと欲するは、自己の國家が有利の地位に在る可きことを知るが故である」と。(Le Moniteur, Sept. 24, 1793, p. 1133)。彼れ等は又強烈なる植民地政策、制限的航海條例、自國商船に對する補助金の下附及び大海軍に左袒した。バレールは貧民の運命を顧みざる政府は禍であり、恥辱であると記し、(De la Pensée du Gouvernement Republicain, p. 114)、「貧困」なる痛ましき語は共和主義者の語彙より除去せらる可きことを説いた。(Moniteur, Mai 13, 1794, p. 949, 952)。彼れ曰く、「吾人が當さに此の國に於いて除去す可き害悪は政治的經濟の諸原理の變り易きことである。(中略)。吾人が必要とする所のものは共和國の全領域に互れる宏大なる規模に於ける國民的仕事場の組織である」云。(Ibid., Mars 13, 1794, p. 699, 700)。茲に傳統的上層階級的國民主義に對する革命的民主的國民主義の

萌芽が見出される。斯くの如きものは實にジャンコン黨國民主義の經濟理論であり、又フイヒテによつて合理化せられて其の哲學的經濟體系と爲れるものである。(Hars, op. cit., pp. 76-79)。個人主義的國家學説は國家を以つて唯だ單に有用なる存在として承認せんとした。然しながら、個人主義的社會觀は概念的に不適當なると共に、實際的にも亦遂行し得ざることが明かと爲つた。人々が純然たる安全以上の何物をも相互に對して保證することなきの時、經濟的傷害は無産階級の不満足なる地位に由つて發生し、而して精神的及び倫理的損害は種々なる形態に於ける共同體の發達幼稚なるの結果に由つて起る。個人は無殘に相争ひ、一般の風潮は唯物主義的であり、全文化的及び精神的生活は散漫であり、無氣力である。人々が聽がて斯くの如き社會觀の不適當を覺るに至る可きは免れ難し所である。(Othmar Spann, Die Haupttheorien der Volkswirtschaftslehre auf lehrgeschichtlicher Grundlage mit einem Anhang: Wie studiert man Volkswirtschaftslehre? 1925, S. 29)。獨逸に在つては經濟學者等は原子論的及び機械論的の見解より離れて有機的社會觀に向ふに至るのであるが、這般の社會觀は先づ哲學に根差して、浪漫主義的運動に其の實を結んだのである。斯くの如き精神的革命の時鐘を鳴らしたものは實にフイヒテであつた。(Ib., S. 88)。彼れは先づ其の Über den Begriff der Wissenschaftslehre, 1794: に於いて決定的推動力を浪漫主義に與へ、更らに二箇年の後に至つて其の Grundlage des Naturrechts nach Prinzipien der Wissenschaftslehre, 1796. を發表し、初めて個人主義的自然權説を排除して這般の刺戟を補強した。フイヒテは其の國家觀よりして公正なる經濟制度の綱領を演繹せんとした。あらゆる人を其の財産の所有に於い

て保護するの任務が國家に負はしめらるゝならば、それは先づあらゆる者に彼れ自身のものを與へなければならぬ。這般の目的の爲めに、フイヒテは各人が一定の計畫に従つて彼れに割り當てられたる其の經濟的活動に於ける役割を有す可き理性的國家 (Vernünftstaat) を建設した。『所有權』 (Eigentumsrecht) は「行爲」 (Handlung) に對する排他的權利であつて、斷じて「物件」 (Sache) に對するものではない。 (Der geschlossene Handelsstaat, a. a. O., S. 14.) 斯くて又、之れを保證するが爲めに理性的國家は詳細に農業者等の如き生産者階級 (der Stand der Producenten)、技術者階級 (der Stand der Künstler) 及び財貨の分配者たる商人階級 (der Stand der Kaufleute) の仕事及び賃銀を規制しなければならぬ。 (Ib., S. 19-25.) 人口は其の國家の性質及び事情によつて決定せられたる比率に於いて種々なる階級に割り當てらる可きである。農業が比較的困難であり、不生産的である所に於いては、技術家よりも生産者を多く要す可きである。然しながら、事情が變化したならば、其の比率は之れに伴つて變化することを要す可きである。而して國家は課税によつて教師、官吏及び軍人等の必要なる階級に對して仕事と均等なる賃銀とを與へなければならぬ。固より斯くの如き組織は外部よりする諸生産階級の均衡のあらゆる攪亂をして不可能ならしむるに由つてのみ唯り維持せらるゝを得可きである。斯くて國家は、總べての外國貿易を防止し、學問的及び藝術的目的を以つてするの外は、あらゆる外國旅行を拘束しなければならぬ。理性的國家は恰も會つて法律的に又政治的に然りしが如く、商業的に完全なる封鎖國と爲らなければならぬ。國家が外國との貿易を要望するならば、恰も國家のみ唯り宣戰、媾和及び同盟を行ふが如くに、政府のみ専ら之れを行ふ可きである。 (Ib., S. 61.)

斯くの如き目的の爲めに、普遍的媒介物たる金銀貨の總べては先づ第一に流通場裡から撤去せしめられ、之れに代るに單に國內に於いてのみ流通するを得る新國民的通貨 (Nationales Geld) を以つてす可きである。國民的通貨は無價値の素材より成り、外國に於いては無用のものである。彼れは佛國に於いて發行せられたアシニーヤの如き紙幣の缺點を以つて、是れ等のものが常に他の貨幣と並んで通用せるの事實に基けるものと思惟した。是れ等のものは貨幣を代表するものであつて、財貨を代表するものではない。彼れに従へば、貨幣の全量は貨物の全量を代表し、又之れを價する。 (Ib., S. 150.)

フイヒテは此の『封鎖的商業國』を以つて自己の最良なる著作の一と看做したに拘らず、ナポレオンの大陸封鎖に由る『封鎖的商業國』の部分的實現によつて生じたる現實の不快なる印象と、一個の人民が他人の損失に於いて繁榮に赴く競争及び投機の制度に代へて確定的價値の制度を有す可きことを説き、投機的成功の大利得が理性的國家の建設に對する最大なる障害中に算ふ可きことを論じたる著者の見解に對する資本階級の嫌惡とに由つて、此の書は多く世に容れられずして、何等直接の影響をも有することがなかつたのであるが、而も其の主要點の或るものは次代の思想家によつて再び強調せらるゝの運命を有して居つた。「浪漫主義の哲學者」シューリング (Friedrich Wilhelm Joseph Schelling) は這個フイヒテの徹底せる國家社會主義的組織の論述を稱揚して『眞實の組織として再び國家を構成せんとする最初の企圖』と做してゐる。 (Vorlesungen über die Methode des akademischen Studiums, 1803, S. 234.)

七

世界の經濟的關係に於いては、諸國家は畢竟するに獨立の諸單位であつて、其の間には利害の共同存すると共に、其の對立も亦存することが漸次承認せられなければならなかつた。Die Nationalökonomie, 1865-24: の著者ソーデン (Graf Julius von Soden) は世界全般に互れる原則より生じ、斯くて又人類全體に關する經濟學說を表示するが爲めに初めて「國民經濟」(Volkswirtschaft)なる名稱を使用し、而して之れを「國家經濟學」(Staats-Wirtschaftskunde)即ち政治的組織に基礎を有し、國家の範圍内に於ける經濟的福利に關する學と區別した。「國民經濟なる語は更だゴットマン・ヤンセン (Gottlieb Hufeland) によつて普及せしめられた。Neue Grundlegung der Staatswirtschaftskunst, durch Prüfung und Berichtigung ihrer Hauptbegriffe von Gut, Wert, Preis, Geld und Volkvermögen, mit ununterbrochener Rücksicht auf die bisherigen Systeme, Teil I, 1809, S. 14.)。當時の獨逸に於ては「國民」(Volk)と「國家」(Staat)とが英佛に於けるが如く、精密に同一の範圍を有して居らなかつたが爲めに Volkswirtschaft 及び Nationalökonomie なる名稱が選ばれるに至つたのである。獨逸人は過去數世紀に於いて一國民として存在することなく、寧ろ多數の相異なる國家に分割せられた人民と爲つて居つた。吾人は之れを諸國民とも稱することが出来る。然るに第十九世紀の進みに連れて「獨逸國民」は蘇ることゝ爲つた。一國內に於ける經濟單位と其の生活現象とを觀察する時は一方に於いて數多の經濟單位は純然たる經濟的性質を有する交易に由つて相關聯し、他方に於いては同一國民として文化生活を營み、其の間に自から共通なる特色を有することが明かに認識し得

られるのである。而して一國民並びに一國家を形成する多數の經濟單位は外に對しては單一なる一體として現れるのである。

浪漫主義の經濟學者アダム・ミューラー (Adam H. Müller) は國民經濟の有機的單一と永續性とを注意して、主として世界主義並びに個人主義に挑戦し、アダム・スミスの學說及び一般の近代的經濟學が人民全體の生活を其の國民的共同一致及び歴史的連續不斷の關係に於いて顧ることなきを論據として之れを排斥した。彼れに従へば、人間は國家の外に於ては全然考へられざるものである。(Die Elemente der Staatskunst, 1809, I, S. 40.)。國家は人事の全體 (die Totalität der menschlichen Angelegenheiten) 及び其の結合である。(Ib., I, S. 40.)。彼れは國民經濟を以つて總べての生産物の生産物 (das Product aller Producte) と呼んだ。人民の總べての意志 (volonté de tout le peuple) は眞の一般的意志 (volonté générale) より區別せらる可きでなく、總べての利害 (intérêt de tous) は眞の一般的利害 (intérêt générale) より區別せらる可きでなく。(Ib., II, S. 206.)。彼れは貿易の自由を拒んだ。金屬貨幣は餘りに世界的なるが故に、彼れは紙幣の使用を主張する。前者は世界語の如く其の影響に於いて世界主義的である、後者は恰も國語が外國貿易を阻害するが如く、國際貿易を阻害するが故に、それは人民を國家に結び附ける。(Ib., III, S. 171.)。

次いでフリードリッヒ・リストは國家を以つて感情及び利害の無數の羈絆によつて結束せられたる根柢深き統一を有し、血統、言語、習慣、文化、特有の歴史的發達、特有の法律制度及び經濟的傾向を有する集合的持續的存在

と観た。此の統一體の永續的安寧は其の全成員の窮極至高の幸福に對する第一條件である。(昭和四年版拙著『經濟學史』三二八頁)。ラウ(Karl Heinrich Rau)は財貨の交換は各個國家の境界を越えて擴張することを承認したのであるが、而も斯くの如く爲すに於いて、それは更に高き等級の經濟を構成することを主張した。時々の國際的關係は考察せらるゝのであるが、而も經濟學の主題は、彼れの見解に於いては唯り國家内の經濟生活たり得るのである。而してヴァイルヘルム・ロマンナーに至つて遂に「國民經濟學」(Nationalökonomik 若しくは Volkswirtschaftslehre)は「國民經濟の發達法則の學、經濟的國民生活の學」(die Lehre von den Entwicklungsgesetzen der Volkswirtschaft, des wirtschaftlichen Volkslebens)であると定義せられた。(Die Grundlagen der Nationalökonomie. Ein Hand- und Lesebuch für Geschäftsmann und Studierende, 1854, S. 22.)。諸國民の經濟は其の言語、文學、法律及び藝術と等しく其の文化の一部門であると看做された。應がて交易及び分勞に依つて相互關聯せる數多經濟單位の同一の歴史、同一の國家的境界、同一の文化、同一の風習、同一の法制による結合を稱して國民經濟と云ひ、之れを主題とするの學を國民經濟學と稱するの時が到來したのである。

(附記) 吾人が本稿中に關説せるフイヒテの『封鎖的商業國』に關しては故阿部秀助教授の最會心の論文に『フイヒテの經濟觀』(大正十三年版慶應義塾大學經濟學部同人共著『經濟學說研究』三一四頁)があり、又加田哲二教授は其の昭和六年版『獨逸經濟思想史』中に於いて明快なる解説を此の書に對して行つて居られる。(同書六一―九頁)。

## 地理學の本質と地理的環境に就いて

— 經濟地理學方法論に於ける一斷想 —

小 島 榮 次

は し が き

筆者は本誌昭和十年九月號に「經濟地理學の實際的任務に關する一考察」と題して斯學の發展史を概観し、その見地から斯學の本質に關して若干の考究をなした。今こゝでは主として論理的觀點から地理學の本質に觸れ以つて經濟地理學の本質の究明に資したいと思ふが、この一論文は地理的環境と云ふ概念を中心として地理學に對して筆者の抱く疑惑を展開することを目的とし、従つて地理學の本質・その對象・その任務等に關する詳細な考究は他日にゆづつた。

地理的環境の概念を繞る地理學の問題は、斯學にとつて頗る重大なものやうに思はれる。經濟地理學の學問的重要性も、この問題に依つて影響されるところが極めて大きいであらう。然し乍ら筆者は、單に疑惑に悩むのみで、それに對する解答を所有しない。且つ又筆者のこの疑惑は故なきものかも知れぬ。そこで本稿に於いて筆